



カウンスル No.8

Newsletter

Vol.34 No.1 Dec.2023

カウンスルNo.8 第 34 期テーマ：まさか！を楽しもう

第 34 期 会長 烏谷まゆみ



今期No.8 は期首 51 名でスタートし、嬉しいことに東京クラブで 2 名の加入があり、現在は 53 名です。

カウンスル第 1 回会合が 11 月 6 日に山梨県立図書館で開催されました。初めてのハイブリッド会合でしたが、やってみたからこそ見える課題も出てきました。

No.8 は現在高齢化、少人数化に直面しています。今後の会合の持ち方を会員全員で考える必要があります。今回ハイブリッドでやったのは、会場が甲府市だったので会場にお出でになれない会員も Zoom で参加できるチャンスがあると考えたからです。

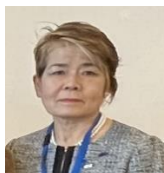
今期第 1 回会合のNo.8 の参加会員は対面 28 名、Zoom9 名の 37 名でした。最初は甲府まで来てくださるか不安もありましたが、全員参加のクラブもあり、一方遠方のため参加できないクラブもありました。他カウンスルからの Zoom でのゲストが 15 名あり、しかもその中からグループリーダーを引き受けてくださった方もいらっしゃってそれは嬉しいことでした。

今後の会合の持ち方として、公営の施設でやるか、ホテル等でやるか、また、ハイブリッドも今後一つの選択肢になるかと考えられます。また、会員との交流をどのように持つかも考えなければなりません。コロナ以後会食をしながら、あるいはティータイムを持ちながらの交流は叶えられませんでした。今回は公営の施設でやったので時間制限があり、そういう形での会員交流ができなかったことは会員の皆様の中にもがっかりされた方がいらっしゃったかと思います。第 2 回会合はその点も工夫します。けれども、会員交流は、会合に向かって話し合いをしたり、準備をしたりすることでもできることで、そちらも大事なことと考えます。私は、全員参加の準備委員会、プログラム委員会の活動の中でそれは十分果たせたと満足しています。

ITC-J は自己啓発のための訓練の組織です。今までの経験と知恵を活かし、コミュニケーションを取りながら、それぞれの会員が持っている力を合わせ更なるステージに向かっていきましょう。

ITC-J 第 42 期 テーマ：守る 変える そして進歩

34期役員からのメッセージ



第一副会長 畑山 はるみ

第一副会長はプログラム・教育委員会の委員長を務め、すべてのプログラムの準備に責任を持つ役目でもあります。第1回会合が終わり改めて「カウンスルの在り方」を考えると会員の減少と高齢化、会員個々の環境の変化等から今後もハイブリットの取入れが必要かもしれません。会員減少は使用できる経費の減少です、会合の登録料として反映すべきなのかとも思います。クラブではできない勉強の場、カウンスル内の会員が交流する場の提供を考えながらプログラムが考えられるか思案のしどころだと思います。そして「お役」を引き受ける事で学べる事の大切さも感じており、カウンスルにおいては少人数のクラブが増える傾向にあるなか会員相互の協力は不可欠だと考えます。

クラブにおいては ITC-J の基本に基づいた各クラブの「コミュニケーション技術と指導力の向上」のためのプログラム、他クラブへの参加で得られる交流の場、対面式で得られる直接的交流の場として、それらを踏まえ会員のニーズに合った優れたプログラムを企画するために情報を集める事も大切です。



第二副会長 荻野 節子

第二副会長は会員委員会委員長を兼務しています。今期の目標は「会員維持・増強」、「一会員が一人以上のゲストを招き、ITC-J の活動を知っていただく」。そのための「Welcome キャンペーン」のキャッチフレーズを J 全体に募集し、カウンスル No.8 では 22 点集まりました。その中からお気に入りのキャッチフレーズを選んで毎月のクラブ例会で効果的に自由に活用して下さることを願っています。

私は今まで ITC-J が何をしているかがよく理解できていませんでした。今回カウンスル第1回会合を甲府で行い、役員の方たちが一丸となって創り上げるのを間近で見ました。10月に東京クラブに入会された2名の新会員も出席され、学ぶ仲間が増えることはとても嬉しいと思いました。お役をいただいたこの機会に他クラブにできるだけ多く訪問してコミュニケーションを深め、学ばせていただき ITC-J の活動を伝えていけるようになろうと思います。各クラブの会員の皆さま、訪問しました際にはよろしくご挨拶致します。



書記 田中初子

書記のお役目として、重要なものは議事録作成ではないでしょうか。年2回の会合議事録、毎月のように開催される役員会議事録等を如何に正確に残していけるか腐心するところです。会員の皆様の発言や行動なりが、その方の気持ちや雰囲気まで、そことなく伝わるような言葉で表すことができれば、最高ではないかな、と思っております。ありがたいことに、経験豊かな方々の役員会ですので、よきアドバイスを頂きながら進んでおります。

会員の皆様にも、議事録へのご意見、ご要望などございましたら、お気軽にお知らせいただけたらどうぞ何時でもお聞かせくださいませ。また、議事録は会員にひらかれております。何時でも閲覧が可能です。思い出の一助になるかもしれません。会員と議事録が近い存在でありますよう努めていきたいです。どうぞ宜しくお願い致します。



会計 田中眞紀子

皆様ご存じの通り、会計の仕事は、年会費その他費用の徴収手続きと管理、そして会員情報変更手続きですが、一番初めにする仕事は郵便局での代表者名義変更手続きです。

最近「変更届」「団体規約」と共に「取引目的等確認届出書」を提出しなければなりません。この書類には「人格なき社団のお客様」と書かれています。「人格なき社団」とは？団体としての組織を備え、多数決の原理が働き、構成員の変更に関わらず団体が存続し、その組織において代表の方法、総会の運営、財産の管理など団体としての主要な点が確立している組織とのことです。書類の審査は厳しく何度も郵便局に行かれたクラブ会計の方もいらっしゃると思いますが、変更手続きを終えたということは「人格なき社団」と認められたということですね。

ゆうちょダイレクト、ゆうちょ認証アプリ等、郵便局も少しずつ便利になってきました。会計の仕事が少しでも楽になることを願っております。



議会法規役員 根岸千代

議会法規役員を仰せつかって、はたと気が付きました。今まで会則も議事法マニュアルも教育マニュアルもいい加減に読んできて、よくわかっていないことに。これは、勉強が必要だな！と思っているところに、修正案が出てきて。Jと矛盾する修正案は取り上げることが出来ない、ということにしばらくしてから気が付くというお粗末。一度もITC-Jのホームページを覗いたことが無い、という方はいらっしゃる？とは思いますが、どうぞ、色んな方の努力の結晶です、是非ご覧になってください。私も



今回マニュアルを見直してみて、今まで指名委員選挙など「特別予定議事」としていた箇所を「特別審議事項」に変える提案を役員会でしました。ロバート議事規則では「特別予定議事」が使われていて間違いではないのですが、議事法及び教育マニュアルの中では後者の方が使われています。CMTで勧めて頂いた「民主主義の文法」というロバート議事規則入門を読み始めました。ご一緒に学んでいきましょうね～！

カウンスル No.8 第 34 期第 1 回会合



今期第 1 回会合は 2023 年 11 月 6 日（月）13 時より、初めて首都圏を離れ、秋たけなわの甲府、県立図書館で、ハイブリッド形式で開催されました。

高山敦子 ITC-J 会長をはじめ、ゲスト 28 名（対面 13 名、オンライン 15 名）をお迎えして、No.8 会員 37 名（対面 28 名、オンライン 9 名）と合わせて出席者総数 65 名とオンラインのメリットを活かした会合となりました。



公式訪問者（大原 ITC-J 第一副会長）から 10 項目のインフォメーションがあり、今期会員数は 687 名、56 クラブでスタートしたこと、年次大会は 2024 年 7 月 15・16 日の両日、神戸ポートピアホテルで開催されること等の

報告がありました。第 33 期会計監査報告書及び第 34 期予算案は過半数の賛成を得て採択されました。指名委員選挙は相対多数選挙で行われ、中村洋子さん（東京）、宮崎ひろ子さん（東葛）、田村純子さん（横浜）の 3 名が選出されました。

プログラムは饗場嗣祈子プログラムリーダー（横浜）の進行のもと、郷土の俳人、



井上康明先生を講師にお

迎えして、第 1 部：講師の

お話「俳句とは」、第 2 部：グループワー

ク「代表句の選出」第 3 部：講師の「講

評」の 3 部構成で行われました。前もって

出されていた課題「木の実」を詠んだ俳句を

各自持ち寄り、会場 6 つ、オンライン 5 つのグループに分かれて話し合

い、代表句を選んで提示し、講師から講評をいただきました。いずれ劣らぬ名句揃いで、個人の感性が左右する俳句という題材をうまく全員参加のグループワークに作り上げた企画は会員の一体感を増し、また会場とオンラインを上手につないだ素晴らしい企画でした。

公共の施設ということもあり、会場の設営及び片付けに朝早くからご尽力なされた方々、お疲れさまでした。

文責：ウェブ・会報委員会



第1回会合を終えて

準備委員長 山口久美子（韮崎）



皆様を山梨県にお迎えしての会合やハイブリッド形式は初めてのことでしたので、どのようにお迎えしようかと烏谷カウンスル会長を始め韮崎クラブの会員一同は、ワクワクしながらも細心の注意を払いながら準備を進めてまいりました。

ハイブリッド形式という未知なるものへの挑戦でしたが、幸いなことに外部の方2名がオペレーターを務めてくださって、音響・映像配信などに関わるすべての機材を持ち込んで操作してくださったので実現できたことと感謝しています。

また、プログラムの俳句のお題が「木の実」ということなので、会場をできるだけ秋の雰囲気にならせようと、机にはどんぐりやハナミズキの赤い実をあしらったデコレーションを飾ったり、受付には秋の花々を花瓶に活けたりしました。お菓子も山梨県と言えば真っ先に思い浮かぶのは信玄餅ですが、せっかくですから珍しいものと思い、昔、舟運で栄えた甲州鰍沢の創業百余年の伝統の味「山家焼・栗せんべい」と「信玄棒」をご用意しました。

会場は、甲府駅から徒歩5分という山梨県立図書館のイベントスペースで開催され、Wi-Fi環境も整っていて立地条件は大変良かったのですが、会場の設営・片づけは人力に頼らなければならず、高齢を迎えた会員にはいささか手間取ることが多かったと思いました。会合を開催する際は、地方に限らず会場選びは慎重を期すことが今後の課題であると思いました。



<編集後記>

- *お忙しい中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。
- *ハイブリッド形式による第34期第1回会合の様子は、現場撮影とZoomスクリーンショットの両方の写真でお伝えしました。会合の雰囲気等を感じていただければ嬉しいです。
- *第1回会合写真は、他にNo.8ホームページ「アルバム」にも掲載いたします。どうぞご覧ください。

council8.itcjr.jp

ウェブサイト・会報委員会 山内昌子 八尾和子